令和７年度　研究推進計画

学 校 名　江田島市立江田島小学校
学校長名　畠藤　邦子

１　研究主題

他者と協働し、主体的に学び続ける児童の育成
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業改善を通して～

２　主題設定の理由

本校では昨年度、研究主題を「他者と協働し、主体的に学び続ける児童の育成～『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実を図る授業改善を通して～」とし、「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実を図る授業を展開すれば、他者と協働し、主体的に学び続ける児童を育成することができ、学力も資質・能力も向上するであろう。」という仮説を設定した。「他者と協働し、主体的に学び続ける姿」を「見通す力」「見つめる力」「関わる力」「やりぬく力」の４つの資質・能力が総合的に働いている姿だと定義し、教職員間や児童・保護者と共通認識をしながら、授業や行事に取り組んできた。そして、共通のゴールに向けて、教員一人一人が研究仮設を立て、その実証に向けた個別最適な学びの研究に取り組み、自身の取組を検証していく研究を進めてきた。

昨年度の取組の成果として、自由進度学習だけでなく、一部の学びを児童に委ねることで児童の主体性が高まることが分かった。また、教材の提示方法を工夫し、興味を引き出すことで、児童が自分の問題として捉えやすくなり、思考が深まった。学習コーナーやグループ活動を活用することで、児童同士で教え合い、友達の考えを取り入れながら学ぶ姿勢が見られるようになったことが成果として挙げられた。課題としては、進度差に対する支援や声掛けが重要で、児童が自分の考えを言語化する難しさにも対処が必要であり、学習の選択に迷う児童への支援や、協働学習の場の整備が大切になってくることがあげられた。

年間の振り返りでは、児童の実態に合わせた授業展開が重要であり、国語科だけでなく他教科でもつまずきに対応する取組を進めていくことや、児童が主体的に学べる環境をつくり、自己学習を促すために、練習プリントや操作活動を増やし、問題と日常生活を結びつけた授業を提供したいという改善点が出された。また、他者への思いや考えを受け入れる姿勢の指導が必要であると痛感した。

令和６年度の全国学力・学習状況調査で、国語科の平均正答率は６２％、算数科の平均正答率は５６％と、２教科とも全国平均を下回っている。また、江田島市学力調査においては、国語科と理科においては、一定の成果は表れているものの、算数科では、学校全体として知識・技能面の定着と主体性に課題が見られる。また各学年の平均正答率は、目標値を上回った学年の割合は５６％であった。

算数科の課題として、次の２つのことがあげられる。１つ目は、基礎基本の定着不足である。計算力や基本的な概念が十分に身に付いていないことである。学年ごとの学習が積み重なる科目であるため、前学年での理解不足が次の学習につながっていないこと、つまずきがその後の学習に影響していると考える。また、「なぜそうなるのか」を考える機会は学習の中で展開されているが、児童は必要感がなく、単に公式や手順を暗記だけになっていることも課題として考えられる。

２つ目は、公式や手順は覚えているが、応用問題や文章問題になると解けないことである。そこで考えられることは、文章問題や図形問題で使われている言葉の意味が分からず、問題を正しく読み取れていないこと。また、問題文の意図を理解する前に計算に取り組んでしまうことも一つの課題になるのだと考えている。

そこで、学力の定着が最重要課題の一つとして位置付けるが、その実現には、ただ単に学習内容を教えるだけでは不十分であり、学級活動が大きな役割を果たすであろうと考える。また、本校の実態として、他者の思いを受け入れながら話をすること、自分の思いや考えを最後まで伝えることが課題としてあげられる。

学級活動は、児童が協力し合い、自己表現や社会性を養う場であり、学力向上に深く関わっていると認識している。学級活動を通じて、児童は協調性やコミュニケーション能力を高めることができる。グループでの協力や意見交換を行う中で、自分の考えを他者に伝える力や、他者の意見を尊重する力を養う。これにより、学習に対する積極的な姿勢が生まれ、学力向上へと繋がる。特に、ディスカッションやグループ作業を通じて、学びが深まり、問題解決能力が向上し、学習効果が高まると考える。

また、学級活動では責任感や自己管理能力も育まれる。児童は自分の役割を果たし、学級全体の活動を進める責任を持つことになる。この経験により、時間や課題を計画的に管理する力が養われ、学習においても計画的に取り組む姿勢が身に付く。自己管理能力の向上は、学力向上に直結する重要な要素である。さらに、学級活動で得られる自己肯定感や自信も学力向上に大きな影響を与える。成功体験を重ねることで、児童は自分に自信を持ち、学びに対して前向きな姿勢を育む。このような態度が学習意欲を高め、学力向上に繋がる。

学級活動は、協力や社会性だけでなく、学力向上や定着のための基盤を作る大切な要素であると考える。これらの理由から、学級活動の充実を通じて、児童の学力向上を図ることを目指し、本研究の主題を設定した。

そこで、今年度も、「他者と協働し、主体的に学び続けることができる児童の育成～『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実を図る授業改善を通して～」を継続し、教員一人一人が研究仮設を立て、その実証に向けた個別最適な学びの研究に取り組み、自身の取組を検証していく研究を行っていく。（算数科・特別活動の２つに絞る）その際、どのような取組を行っていくかを日々の対話や校内研修を通して共有化していくことを大切にしたい。各学年、発達段階も、人数も、実態も、大きく異なる。また、教師の経験値や思いも様々である。育てたい児童の姿について合意形成を図った上で、教師一人一人が、「校内研究における自己選択・自己決定」を行い、研究を進めていくことで、「研究授業をやれば終わり。」という研究ではなく、本当に児童の力を伸ばすことができる研究になると考えた。

３　研究の仮説

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業を展開すれば、他者と協働し、主体的に学び続けることができる児童を育成することができ、学力も資質・能力も向上するであろう。

４　研究内容

以下４つの視点から、研究を行う。①については、教員一人一人が研究仮説をたて教育活動を実践し、その取組の効果を検証する「研究報告書」を作成する。

①　各教科等で育てたい資質・能力の明確化と共有化

学期に一回以上、（低・中・高学年ブロックで、算数科か特別活動かを決定する。）「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業展開を目指して授業改善を行い、校内研修を通して実践を共有する。また、１・２学期ともに、どちらも研究を進めていく。校内研修においては子供たちが資質・能力を働かせることで、「他者と協働し、主体的に学び続けていたか。」「教科で身に着けさせるべき力は付いているか。」という視点で協議を行う。授業展開を考える際には、教科の目標と育てたい資質・能力が重なる部分を見つけ出すことと、本質的な問いに迫るための手立てを考えることに留意する。

② 行事・出前授業で育てたい資質・能力の明確化と共有化

行事においては、例えば、「運動会において見通す力をつけるために、中学年では、演技の一部を子供たちが創作し、練習計画を練る教育活動を行う。」など、行事前に育てたい資質・能力の具体を学校全体で協議することで明確化し、学年部ごとにどんな取組を行っていくのか共有化を図る。行事後には、レベルアップ自分シートを活用して、児童の変容を見取る。

また、出前授業においては、今後地域に開かれた学校という流れになっていく中で、育成すべき資質・能力を共有した上で、地域の方に協力してもらうことは主体的に学びに向かう児童を育成する上で必要不可欠なことになってくる。「出前授業連携シート」を活用することで、単元の中に出前授業を意図的に位置付けた教育活動を構成していく。

③ 家庭学習で育てたい資質・能力の明確化と共有化

例えば、「見通す力をつけるために、高学年では、漢字学習のゴールとして、毎週の漢字テストを行う。学習計画等は子供たちに委ねる。」など、主体的に学ぶ児童を育成するための家庭学習の在り方について、４月当初に協議を行う。「形だけの自主学習」にならないように、子供たちの発達段階や、これまでの積み重ねを考慮した上で、具体的に協議を行い、共有化していけば、系統的な家庭学習の在り方が見えてくるであろう。

④ レベルアップ自分シートの共有化

学期はじめに、どの単元・行事において資質・能力の育成を重視し、振り返りをするのか教師と教師、教師と児童で共有しておく。また、これを研究報告書とリンクさせる。そのために、レベルアップ自分シートに、あらかじめ単元名と行事を記入しておく。

また、保護者との懇談でレベルアップ自分シートを共有することも徹底する。

（レベルアップシートは、アンケート等の変容が見えるように改善していく。）

⑤ 振り返りの質を向上させるという意識の共有化

「自己成長を振り返る」振り返りの質の向上のために、全教育活動を通して子供のメタ認知力を育てていく意識を共有する。「教科としての学びを振り返る」振り返りの質の向上に向けては、本質的な問いの設定や、日常生活と学びを結び付ける力を育成することなどが重要になってくるという考え方を共有し、授業改善に臨む。

⑥ 出前授業で育成したい資質・能力の共有化

今後、地域に開かれた学校として、育てたい資質・能力を共有し、地域の方に協力してもらうことは、主体的に学びに向かう児童を育成する上で必要不可欠なことになってくる。

５　検証の指標（学年・学級で検証する。）

○　資質・能力の向上

広島県学習意識等調査や、広島県教育委員会ＨＰ、文部科学省ＨＰなどに掲載されているアンケートを活用した分析（年２回以上）

→　どのアンケートを活用するか、５月の研修で協議・共有する。

○　学びのポートフォリオによる記述の変容

レベルアップ自分シートの記述分析。

○　学力の変容

江田島市学力調査の分析

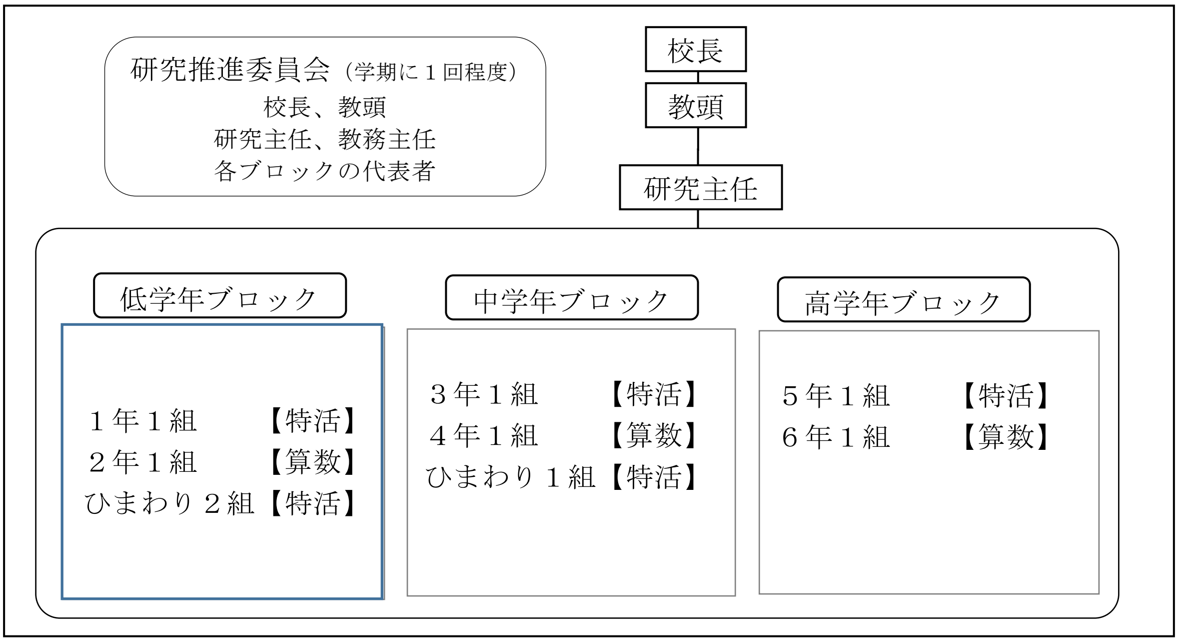
→　全国平均値と学級平均値との差がプラス方向に前年度を上回る学級の割合。

６　検証計画

検証実施月	内容
４月	研究推進計画に関する研修・研究報告書に関する研修 全国学力・学習状況調査
５・６月	検証アンケートの決定、実施
６月	
７月中旬	研究報告書の交流
８月上旬・下旬	授業改善に向けた研修　全国学力・学習状況調査の分析
９・１０・１１月	
１２月	全国標準学力テスト（東京書籍） 研究報告書の交流
１月下旬	全国標準学力テスト（東京書籍）の分析
３月	まとめ

研究授業
各学級での実践

７　研究組織



８　校内研修計画

	研究推進委員会	全体研修会	ブロック研修会・その他
4 月	・研究推進計画の立案	第１回全体研修会　（4月初旬） ・研究推進について ・研究報告書の作成について ・家庭学習について ・研究授業の日程決定	○全国学力・学習状況調査 （4月18日）
5 月		第２回全体研修会　（5月初旬） ・検証アンケートの決定・実施 ・研究授業①②の指導案検討	
6 月	・夏季休業中 研修計画の立案	第３回全体研修会　6月18日（水） ・研究授業①② 【①５年：特活、②４年：算数】 ・各クラスでの実践の交流	
7 月		第４回全体研修会　（7月下旬） ・各クラスでの実践の交流	
8 月	・1学期の取組反省 ・２学期に向けて	第５回全体研修会　（8月初旬） ・１学期の研究報告書の交流 第６回全体研修会　（8月下旬） ・２学期分の指導案検討（４本） ・全国学力・学習状況調査　分析	■低中高ブロック研修 （８月上旬） 指導案検討　２学期分
9 月		第７回全体研修会　9月19日（金） ・研究授業③④ 【③1年：特活、④２年：算数】	■ブロック研修（９月中） ひまわり授業研究
10 月		第８回全体研修会　（10月下旬） ・研究授業⑤【ひまわり：特活】	
11 月		第９回全体研修会　11月7日（金） ・研究授業⑥⑦ 【⑥３年：特活、⑦６年：算数】	
12 月		第１０回全体研修会　（12月下旬） ・２学期の研究報告書の交流	○東京書籍学力テスト実施 国語科・算数科【１～６年】 理科【３～６年】　市で実施
1 月		第１１回全体研修会　（１月下旬） ・東京書籍学力テストの分析	
2 月	・今年度の取組の 成果と課題	第１３回全体研修会　（2月上旬） ・アンケート結果の交流	
3 月	・来年度の方向性	「研究のまとめ」冊子作成	

※　学年で１回全体研究授業を実施する（ひまわり学級も１回）。
それ以外は、時期を設定してブロック研修を行う。
事前に、ブロックごとに指導案検討会をもち、全体で指導案検討を行う。

＜講師派遣について＞

① 6月18日（水）･･･【①②】 講師：広島大学 朝倉淳　名誉教授

② 8月 日（)

・・・１学期の研究報告書の交流　講師：広島県教育委員会　指導主事

江田島市教育委員会　指導主事

③ 9月19日（金）･･･ 【③④】講師：広島大学 朝倉淳　名誉教授

④ 10月 日（)･･･ 【⑤】 講師：広島県立呉特別支援学校　江能分級

特別支援コーディネーター

⑤ 11月 7日（金）･･･【⑥⑦】 講師：広島大学 朝倉淳　名誉教授

⑥ 11月 日（)

･･･２学期の研究報告書の交流　講師：広島県教育委員会　指導主事

※赤文字は、未決定。令和７年度４月中に、日時を最終決定する。

学 校 教 育 目 標

≪　研究構想図　≫

まっすぐ　しなやかに　ねばり強く

～学びをつなぎ、ともに創造しようとする児童の育成～

目指す子ども像

「やりきり　伸ばし　チャレンジできる子」

☆　やりきれる子**【やりぬく力】**
（自分を律し、物事をやりとげられる児童）

☆　得意を伸ばせる子**【見つめる力・関わる力】**
（自分のよさを伸ばし、相手も大切にできる児童）

☆　未来に挑戦できる子**【見通す力】**
（先を見通し、何事にもチャレンジできる児童）

研　究　主　題

他者と協働し、主体的に学び続けることができる児童の育成

～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業改善を通して～

全教育活動を通して

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業を展開すれば、他者と協働し、主体的に学び続けることができる児童を育成することができ、学力も資質・能力も向上するであろう。

〇資質・能力の明確化と共有化

・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業

・行事前、行事後における子供の姿の共有

・出前授業連携シートを活用した教育活動の構成

【検証方法】

- ○　**資質能力の向上に関わるアンケート**
- ○　**学びのポートフォリオによる記述の変容**
- ○　**学力の変容**

<u>一人一人が研究仮説を立て、</u>
<u>その実証に向けた取組を検証</u>